

おいてけぼりをつくらない7つの手立て

がんばる子が進む一方で、「今、何をしているのか」が分からなくなる子を出さないために。

1

学びの地図を貼る

過程の掲示（今ここボード M01～M03）で現在地を全員に見えるようにする。個人の頭の中ではなく、壁で共有する。

根拠：プロジェクトウォール（PBLWorks）

2

問いとゴールを常掲する

「何のためにやっているか」に毎時間戻れる場所をつくる。計画シート（P01）を学びの地図の横に貼っておく。

根拠：Gold Standard PBL＝挑戦的な問い・公開の成果物

3

問い返して考えを促す

「それって調べたの?」「どうしてそう言える?」。答えを教えず、検証に返す。子どものつぶやきを拾い、価値づける。

根拠：足場かけ＝やってみせて、少しずつ手を引く（Bruner）

4

話型で言葉を鍛える

見通し（何を・どうやって・何が分かりそう＝K01）と進み具合・援助要請（K02）を全員が言える状態に。自己主張が苦手な子ほど、型が安心をつくる。

根拠：見通しの言語化・自己調整学習

5

リハーサルを必ず入れる

本番前に一度見せ合い、「よかった・考え直す」を出して作り直す時間（P02）を計画に組み込む。リハーサルなしでは伸びない。

根拠：Gold Standard PBL＝批評と改訂（Critique & Revision）

6

振り返りは「前と比べて」

前回→今日→次回をつなぐ（P03）。次の時間の最初の5分はこのシートを読むところから。「こまっていること」欄は教師が回収して支援に使う。

根拠：Gold Standard PBL＝振り返り（Reflection）

7

画面ではなく、表情を見る

迷子つぶやきと表情に出る。ツールに任せず対話で確かめ、学級のチームの力も借りる。支援は固定せず、様子を見て出し入れする。

根拠：足場の出し入れ・Engage & Coach（PBLWorks）